

はりま

千種の防災生徒協力

災害予測図作成へ測量

安粟市千種町の県立千種高校と市立千種中学校の生徒らが24日、同町中心部の立体ハザードマップ作りを目指し、地域の測量を始め

取り組んでいる千種災害対策プロジェクトの一環。千種高校を中心とした半径約3キロの範囲を秋までに測量し、千種川の氾濫やゲリラ豪雨による浸水被害の想定を、ジオラマ風のハザードマップに仕立てる。地図形式のハザードマップより理解しやすいのが利点だ。

この日は千種中高校生5人が参加。最初に大学生7人から測量用機器の操作を学んだ。千種高の小竹潤さん(17)は「避難場所を増やすことを考えたい」、千種中の上山直人さん(14)は「ハザードマップが多くの人を救うことにつながる」と張り切っている。

プロジェクトでは、2学期に木造仮設住宅の建築体験も計画している。